

将棋界最高位タイトル戦
竜王戦
七番勝負

開催地募集要項

主催：読売新聞社 公益社団法人日本将棋連盟

読売新聞社と公益社団法人日本将棋連盟は、将棋界最高位のタイトル戦[竜王戦]七番勝負の対局開催地を全国から募ります。

[竜王戦]は、26期続いた[十段戦]を継承・発展させる形で、1987年に創設されました。優勝賞金4,400万円(第35期現在)の国内最高峰の公式戦です。1年間に及ぶ予選を勝ち抜いた挑戦者が、「竜王」に挑む七番勝負は、持ち時間8時間2日制の対局を7局行い4勝した者がタイトルを獲得する厳しい勝負で、将棋ファンはもとより、全国的にも大きな注目を集めます。

この七番勝負の対局開催地を誘致いただくことにより、地域の魅力を全国に発信し、地域の文化振興にお役立ていただければ幸いです。

■募集対象の対局

第36期～第38期 竜王戦 七番勝負

(第35期の場合。第36-38期は2023～2025年の同時期)

第1局：2022年10月上旬	第2局：2022年10月中旬
第3局：2022年10月下旬	第4局：2022年11月初旬
第5局：2022年11月下旬	第6局：2022年12月上旬
第7局：2022年12月中旬	

※開催時期はおおよその目安です。多少、前後することがあります。

※対局者のいずれか一方が4勝した時点で終了するため、第5・6・7局は、実施されないことがあります。なお、シリーズ終了により対局が行われない場合、会場や
宿舎への取消に伴う費用は主催者側では負担できません。

※すべての対局が応募団体の中から選考される訳ではありません。

- 対局は、持ち時間8時間の2日制で行います。
- 水曜・木曜または木曜・金曜の2日間に設定されるのが標準的な日程です。
- 関連イベント等行う場合、土日を含めた日程も可能です。

■応募資格・選考条件

- 最高位タイトル戦の対局開催にふさわしい対局会場、宿泊施設、イベント会場をご提供いただけること。
- 関連イベントを含めた運営要員・支援体制をご提供いただけること。
- 将棋文化の普及振興にご理解をいただき、対局開催を積極的にご活用いただけること。
- 公共機関・民間団体・民間企業等の別を問いません。

■応募用紙送付先

〔郵送の場合〕

〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1
読売新聞東京本社 編集局棋戦等事業室 宛

〔電子メールの場合〕

shogi@yomiuri.com

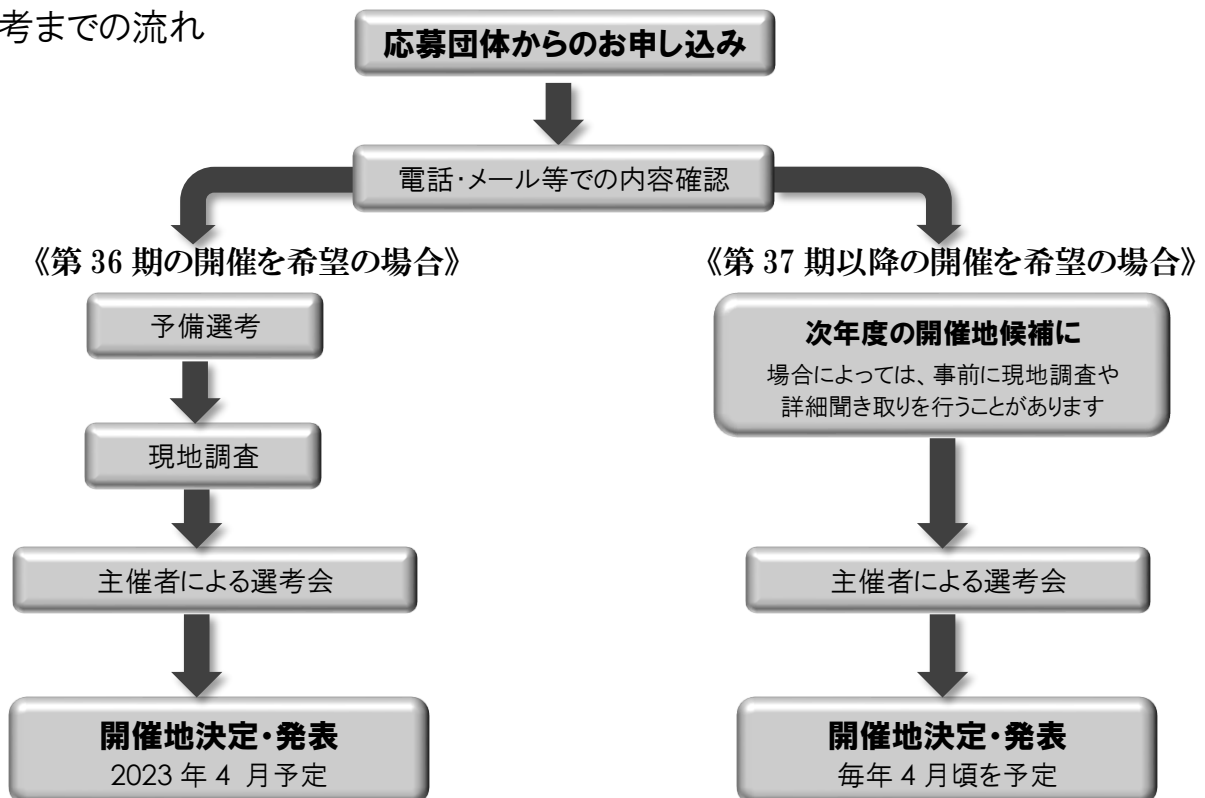
〔お問い合わせ〕

上記 棋戦等事業室 TEL: 03-6739-6713 (平日 10:00-17:00)

■応募締め切り

《第 36 期以降の開催地》 随時受け付けます(最終締め切りは、当該開催年の 1 月末予定)

■選考までの流れ



■選考と発表

- 竜王戦主催者の読売新聞社と日本将棋連盟による開催地選考委員会の審査を経て決定されます。
- 七番勝負すべての対局会場が、応募団体の中から選定される訳ではありません。
- 第 36 期竜王戦七番勝負の開催地は、2023 年 4 月頃に、読売新聞紙上および日本将棋連盟公式HP等において発表されます。開催地決定団体には、事前に通知し、最終確認を行います。
- 開催地選定の理由や、選外開催地の発表は行いません。

①対局会場

- 最高位タイトル戦にふさわしい対局会場をご提供下さい。
- 格式ある宿泊施設、歴史的建造物や文化財、地域のランドマークとなる施設などが想定されますが、要件を満たせば、様々な形態の施設でも開催は可能です。詳しくは事務局までご相談下さい。
- 施設の要件詳細は、7・8 ページをご参照下さい。

②宿泊施設

- 対局会場内または近隣に、対局関係者が滞在する宿泊施設をご用意下さい。
- 標準的な場合で、宿泊者数は下記の通りです。

・対局者(竜王・挑戦者)	2名	
・正副立会人(棋士)	2名	
・記録係(奨励会員)	1名	
・大盤解説棋士・聞き手(女流棋士)	2名	(大盤解説会・関連イベントを実施する場合)
・観戦記者	1名	
・日本将棋連盟 役員および職員	2名～3名	(対局室と大盤解説会場が異なる場合は3名)
・ネット中継スタッフ	2名	
・主催新聞(記者・スタッフ)	10名～12名(決着局の場合、2名増)	計 22名～25名

- 対局前日、対局初日、対局最終日の3泊4日(1泊目の夕食から出発日の朝食まで8食)の滞在です。
- 特に、対局者を含めた棋士(6名程度)は、一定グレードの客室をご用意下さい。
- 棋士を含めて、関係者の滞在は原則として個室をご用意下さい。
- 宿泊施設の要件詳細は、10 ページをご参照下さい。
- この他に、中継配信局、将棋専門誌等のメディア関係者が同日程で開催都市に滞在することが見込まれます。基本的に各社の自主手配となりますが、宿泊施設の確保が難しい開催地の場合は、応募団体にて一定の室数の確保・斡旋をお願いする場合があります。

③関係者移動

- 上記関係者の東京(一部の棋士は、関西など他の地域発)から開催地までの移動旅費をご負担ください。
- 対局者を含めたプロ棋士の移動は、JR 特急の場合グリーン車、航空機移動の場合は JAL 便に限り class J シートが条件となります。
- 座席指定による鉄道移動が難しい区間については、チャーターバスをご用意いただく場合もあります。

④関連イベントの会場および運営

- 対局に伴って、《前夜祭》《大盤解説会》《交流イベント》等の関連イベントを実施することが可能です。
- 開催を希望される場合は、それぞれの会場確保、参加者募集、当日の受付管理体制などをご用意下さい。
- 各イベントに出演する棋士の招請費用をご負担いただきます。
- 各イベントの詳細要件は、5・6・9・10 ページをご参照下さい。

経費的なご負担について

竜王戦開催地招致に際して、経済的な負担が発生いたします。相応のご負担をお願いいたします。

七番勝負の実施運営には多くの経費が必要となり、開催地に会場費や関係者宿泊費、関係者移動交通費、イベント運営費などご負担いただくことは、対局開催の大きな助けとなります。

ご応募に当たって、開催地でどの程度の経費負担を負っていただけるか、概算を応募用紙の所定欄にご記入いただければ、選考上の参考とさせていただきます。

また、自治体予算の活用などで、応募時点で拠出額が確定できない等の場合は、おおよその見通しをご記入いただければ幸いです。詳細は個別に事務局にご相談下さい。

【ご参考】対局開催にかかる主要な経費(モデル・ケース)

※1対局を開催するのに必要な主な経費の例です。ここに挙げるすべてが必ずしも開催地の負担となるわけではなく、開催地のご負担能力に応じて、主催者と協議の上、経費分担を調整させていただくことになります。

項目	摘要	概算金額	備考
関係者交通費	東京⇄開催地の標準的旅費×22人～25人	開催地による	棋士6人はグリーン車
関係者宿泊費	宿泊者×3泊(2食)×想定宿舍の宿泊単価		対局者は上位クラスの部屋
会場費	対局室・控室・運営本部(検討室)		
関係者食事費	【対局前日】夕食(前夜祭がある場合は別計上。ただし対局者他6人程度の別食が必要) 【対局初日】朝食・昼食(5食程度追加)・夕食 【対局2日目】朝食・昼食(同上)・夕食 【対局者用】茶菓2×2日、昼食2×2日 【本部控室】湯茶接遇		
前夜祭経費	会場費・料飲費・司会料・花束記念品費 その他要員費 など		
大盤解説会経費	会場費・棋士招請費用・音響費・備品使用料 賞品費・その他要員費 など		
イベント経費	会場費・棋士招請費用・市内移動費・音響費・備品使用料 昼食代・賞品サイン会用品費・その他要員費		将棋教室、指導対局、講演会など
広報費・印刷費	ポスター・チラシ等印刷費・広報費 など		
管理手数料	調査経費、実施運営に係る経費 など		

★竜王戦は、対局者のいずれか一方が4勝した時点で終了します。

このため、第5局・第6局・第7局は実施されない場合があります。

4勝決着により対局が開催されない場合、取消にかかる費用は主催者側では負担できません。

ご了承下さい。

対局に合わせて実施できること

①前夜祭

- 対局前日の夕食を、《歓迎前夜祭》とすることが可能です。
- この場合、対局招致団体等が「前夜祭の実行責任者」となります。
- 対局関係者、地元関係者のほか、一般参加者を募ることも可能です。この場合、参加料の徴収有無や料金設定は、前夜祭主催者にお任せします。
- 両対局者やプロ棋士らと交流する貴重な機会となります(感染症対策で交流できない場合があります)。
- 両対局者は、翌日の対局に備え、途中退席するのが一般的な進行です。この場合、対局者+数名の夕食を別室にご用意いただくことがあります。

【標準的な前夜祭の式次第(例)】

- | | |
|-------------|---------------------|
| ・対局主催者あいさつ | 読売新聞の代表者／日本将棋連盟の代表者 |
| ・前夜祭主催者あいさつ | 誘致団体の代表者 |
| ・歓迎挨拶／乾杯 等 | 地元関係団体の代表者等 |
| ～ 歓 談 ～ | |
| ・参加棋士紹介 | 両対局者・立会人・記録・解説者等 |
| ・花束・記念品等の贈呈 | 地元の代表から両対局者へ |
| ・記念撮影 | |
| ・両対局者あいさつ | 竜王／挑戦者（あいさつ後、退席） |
| ・立会人の見どころ解説 | 立会人 |
| ・中締め | 地元関係者 |



②初手立ち会い

- 対局初日および2日目の対局開始(午前9時)時に、限られた人数ですが、対局室(または隣接部屋)に入室し、両対局者の初手に立ち会うことが可能です。
- 開催地誘致団体の代表者1名は、将棋盤向こう正面の記録机に着座し、お立ち会いいただけます。
- 対局室の間取りによって参加人数は変わりますが、対局室の続きの間がある場合で、8名程度(会場の広さによる)が初手に立ち会うことが可能です。



③大盤解説会

- 大型の将棋盤ボードを使って、棋士が対局の進行状況や勝敗の行方、ポイントなどを丁寧に解説します。
- 大盤解説担当の棋士と、聞き手の女流棋士による進行を基本としますが、対局の進行状況に応じて、立会人やゲスト解説者も登壇し、にぎやかに進められます。

- 対局初日の午後～封じ手までと、対局 2 日目の午前～終局までの日程で開催するのが可能ですが、2 日目のみ行うケースもあります。
- 解説会の中で、対局者の次の指し手を予想する《次の一手クイズ》を行い、当選者には抽選で対局者や出演棋士のサイン色紙や記念扇子などをプレゼントし、好評を得ています。
- 大盤解説会の実施を希望される場合、開催地サイドには、会場の提供、参加者の募集・受付、当日の来場者管理(受付・参加料徴収・場内案内)等をお願いします。また、解説と聞き手などの招請費用がかかります。
- 大盤ボード、イベント進行に必要な備品等は、主催者側で用意しますが、映像投射機器(大型TVモニターまたは輝度 10,000 ルーメンクラスの高輝度プロジェクター)は現地でご用意下さい。
- ※ 会場までの映像配信回線の設置費用などが発生する場合があります。
- 多目的ホールなど、200 人以上を収容する大型会場で実施する場合は、大盤ボードではなく、大型映写スクリーン等を使って解説を進行することも可能です。この場合の機材は、開催地サイドでご用意下さい。また、画面上での駒操作を担当する専門のオペレーターが必要になります。スタッフの派遣経費(旅費・宿泊費・日当)は、開催地にてご負担となります。



④交流イベント

- 対局に帯同するプロ棋士による、将棋普及を目的とした交流イベントを実施することが可能です。
- 原則、対局初日に対局会場または近隣施設にて行うのが一般的です。
- イベント内容は、
 - ①プロ棋士による将棋入門教室(こども向け・親子向け・初心者向け)
 - ②プロ棋士による指導対局(多面指し)
 - ③プロ棋士によるチャリティー・サイン会(色紙・扇子など)……参加料有料として、売上を震災復興支援などのチャリティーに充てるのが一般的です。このほかにも、将棋大会、トークイベントなどを実施するケースもあります。詳細はご相談下さい。
- 開催地サイドで、会場・運営スタッフ・受付管理・講師接遇・昼食・湯茶接遇等をご用意いただきます。将棋盤駒、大盤等は、主催者側で手配可能です。



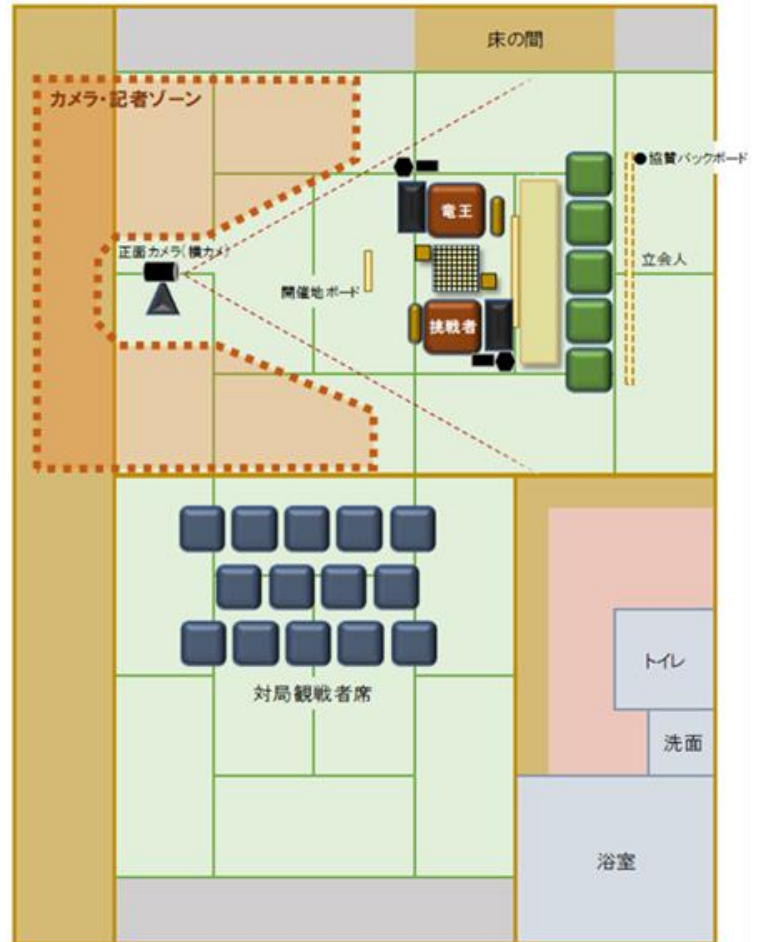
会場の要件

①対局室

竜王戦七番勝負の対局は、将棋界最高位タイトル戦に相応しい格式と環境を備えた施設で行われます。畳敷き・床の間付きの日本間で行われることが多いですが、洋間・会議室・宴会場等の施設でも実施可能です。また、文化財や歴史的建造物、その他の公共施設でも、下記の要件を満たせば、実施を検討することができます。

〔施設要件〕

- 対局スペースとして12畳～(約15㎡)、付帯スペースとして8～10畳(約10～13㎡)程度の広さがあること。ひと間続きで18～20畳(約23～25㎡)程度の部屋の場合は、パーティション(衝立・屏風・可動壁等)で適宜、対局スペースを区切れること。
- 将棋盤を設置する場所の床面から天井まで2m～2.2m程度の高さがあること。
- 対局および放送中継に十分な照度(600ルクス程度)が確保できること。場合によっては、仮設の照明設備を敷設できること。



●対局者の位置関係や向きは、部屋の間取りにより異なります。

- 温度調節が可能な空調設備があること。または、仮設の暖房器具を敷設して、十分な暖をとれること。
- 可能な限り静寂が保たれること。
- 対局スペースと別に、中継カメラを設置するためのスペースがあること。
- 封じ手をするための別室等が隣接してあること。
- 対局者専用のトイレ、洗面所が至近距離にあること。
- 両対局者の控室(対局前後および昼食休憩時に使用。6畳以上)2室が確保できること。ただし、対局室が宿泊施設内にある場合は、両対局者の滞在部屋が控室となるため、不要。
- 中継カメラ(盤面上の天井カメラと、対局者側面の正面カメラの2台)を設置できること。特に、天井カメラ(小型)は、天井照明器具や飾り棧等に取り付けるか、できない場合は仮設のやぐら等を組み立てられること。
- 中継カメラに加えて、主催新聞社などの固定カメラ(3台)の設置ができること。
- 電源(通常の100V家庭用電源で十分)が複数個、確保できること。
- 「動画配信用の部屋」との間に中継用ケーブル(映像配信回線)を敷設できること。
- 窓があり、外景を眺望できることが望ましい。その場合、カーテン・障子等で外光を調節できること。

【日本間の場合】

○床の間付きの畳敷きが望ましい。

【洋間(居室・寝室等)または会議室等の場合】

○仮設で畳敷きスペースを造作できることが望ましいが、カーペット敷きの間でも可能。

ただし、部屋常設の家具・調度(ベッドやテーブル等)は撤去できること。

〔運用要件〕

○対局室によっては対局前々日、少なくとも前日、対局初日、2 日目の終日、使用可能であること。対局翌日午前に撤去作業が入る場合もある。特に、対局 2 日目は終局時間の制限がないため、終局から撤去完了まで深夜に及ぶこともある。

※ 仮設工事などが必要な場合、設営が対局の前々日からになるケースもあります。

○対局室では茶菓、対局者控室では昼食の提供が行われるため、室内での飲食が可能であること。

○対局室の施設管理者と常に連絡が取れ、空調・照明・備品管理等について、対応可能な状況であること。

○対局者への茶菓提供(対局開始前・午前 10 時・昼休憩明け・午後 3 時)のための接遇態勢および要員が整っていること。また、対局者の食事・茶菓のリクエストにある程度、対応できること。

■標準的な対局室の例

●日本間の場合



●ホテル宴会場や
オープンスペースに
畳敷き対局場を
仮設した場合



②運営本部(検討室)

〔施設要件〕

- 最低 20 畳(約 30 m²)以上の広さがあること。
- 日本間、洋間(居室または会議室等)のいずれでも可です。
ただし、複数の記者・スタッフが出入りするので、洋間が好ましい
- 対局関係棋士(立会人・解説者等)、読売新聞および中継各局、専門誌の記者・スタッフなど 20～25 人程度が作業できる机スペースと備品(日本間の場合はふみ机と座布団、洋間の場合は会議テーブルと椅子など)があること。
- 対局室と至便に行き来できること。ただし、直に対局室に隣接していないこと(防音のため)。
- 無線 Wi-Fi 環境またはインターネット用の臨時回線が敷設できること。
(敷設工事は、主催者からNTT等へ手配しますが、建物への敷設が可能であること)
- テレビモニター2～6 台、ファクス 1 台、パソコン 10 台程度を設置・使用できること(電源容量・設置場所の確保)。いずれも機材は主催者・中継局等で用意。
- 本部控室の中継機材から、対局室と大盤解説会場へケーブルを敷設する場合があること。
- 対局関係者が外部一般から独立して使用できるトイレ・洗面所があること。

〔運用要件〕

- 対局室によっては、対局前々日、少なくとも対局前日(中継機材・通信機器の設置／取材)と対局初日・2 日目の終日、使用可能であること。対局翌日午前に撤去作業が入る場合もある。取材・送稿・配信・撤去の作業は深夜に及ぶことがある。
- 部屋の施設管理者と常に連絡が取れ、空調・照明・備品管理等について、対応可能な状況であること。
- 関係者へのお茶・コーヒー・茶菓等の提供が可能であること。
- 控室の周辺で、関係者が昼食をとれること。



③大盤解説会場

〔施設要件〕

- 来場者の見込み人数に応じて、100～1000 人未満収容の会議室・宴会場などが適当。
- 椅子席スタイル、座布団スタイル、いずれの形式でも設定可能。
- 本部控室と同じ建物内の場合は、控室から映像モニター用のケーブルを敷設する場合があること。
- 対局場・本部控室と別の建物の場合は、インターネット回線の敷設が可能であること。
- 対局場・本部控室と別の建物の場合は、解説者の控えスペースがあること。
- 解説用の大盤、映像モニター、イベント進行上の備品類は、主催者側で用意可能。

〔運用要件〕

- 対局 2 日目は、原則として終局まで行うため、解説会が夜間に及ぶ可能性あり。終日の使用が可能であること。
- 来場者管理(受付・参加料徴収)等は、開催地サイドで対応可能であること。
- 感染症対策がとれること。
- 対局室、運営本部と離れる会場で実施する場合は、解説棋士やスタッフが往来できる車両などを用意すること。



④交流イベント会場

〔施設要件〕

- イベントの実施内容、参加者数見込みに応じて、50～200 人程度を収容できること。
- 会議室・宴会場・イベントホールなどが望ましいが、施設側に問題がなければ、ホテルのロビーなどオープンスペースでも実施可能。
- 長テーブル 20～30 本、椅子 50 脚～、ホワイトボード数枚などの備品を用意できること。
- 講師用の休憩スペース(会議室等)を確保できること。

〔運用要件〕

- 来場者管理(受付・参加料徴収・参加者整理・案内)等は、開催地サイドで対応可能であること。
- 正午をまたぐイベントの場合は、講師・スタッフ用の昼食(弁当)を提供可能であること。
- 感染症対策がとれること。
- 対局室、運営本部と離れる会場で実施する場合は、解説棋士やスタッフが往来できる車両などを用意すること。

⑤宿泊施設

〔施設・運用要件〕

- 竜王・挑戦者を含む対局関係者が滞在するのに適した施設・環境・接客態勢を有すること。
- 対局関係者が、原則としてシングルユースで滞在できる部屋数を有すること。
- 対局関係者が、朝昼夕食を同時に取ることができる食事会場があること。
特に昼食時は短時間にすべての関係者が食事できること(対局場が宿泊施設内にある場合)。
- 両対局者(竜王・挑戦者)用に、自室にて指定の時間に朝食・昼食*を提供できること
(*昼食は、対局場が宿泊施設内にある場合)。
- 両対局者および立会人が和装(羽織袴)着付を希望する場合、対応可能であること(外部手配可＝経費は主催者負担)。
- 対局 2 日目は対局が夜間に及ぶ可能性があるため、夜間の関係者夕食の提供が可能であること。

対局4日間の標準的なスケジュール

対局前日(水)	対局初日(木)	対局2日目(金)	対局翌日
午前 対局室設営 15:00頃 宿舍到着 17:00 対局室 検分	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食
	9:00 対局開始(初手立会)	9:00 対局再開(開封)	帰路
	10:00 茶菓提供	10:00 茶菓提供 大盤解説会①	
	12:30 昼食休憩	12:30 昼食休憩	
	13:30 対局再開	13:30 対局再開	
18:00 前夜祭 (19:00 対局者別室食事)	18:00 対局終了(封じ手)	--:-- 終局 感想戦・取材	
	19:00 夕食	--:-- 関係者夕食会 対局室・諸室撤収	

●標準的な対局期間中のスケジュールです。会場によって変動します。

第31期以降の七番勝負対局会場

	竜王	○●は竜王から見て	挑戦者	第1局	第2局	第3局	第4局	第5局	第6局	第7局
第31期	羽生 善治	▼ 3-4	◎ 広瀬 章人	10/11-12	10/23-24	11/1-2	11/24-25	12/4-5	12/12-13	12/20-21
	竜王	○○●●●●	八段	東京・渋谷区	福岡・福津市	茨城・鹿嶋市	京都・福知山市	石川・七尾市	鹿児島・指宿市	山口・下関市
2018/平成30年				セルリアンタワー能楽堂	宮地嶽神社	鹿島神宮	福知山城	和倉温泉 加賀屋	指宿白水館	香帆楼
第32期	広瀬 章人	▼ 1-4	◎ 豊島 将之	10/11-12	10/23-24	11/9-10	11/21-22	12/6-7	12/12-13	12/18-19
	竜王	●●●●●	名人	東京・渋谷区	京都・京都市	兵庫・神戸市	山梨・甲府市	島根・津和野町	鹿児島・指宿市	山形・天童市
2019/令和元年				セルリアンタワー能楽堂	仁和寺	神戸ポートピアホテル	常磐ホテル	藩校 養老館	指宿白水館	ほほえみの宿 滝の湯
第33期	豊島 将之	○ 4-1	● 羽生 善治	10/9-10	10/22-23	11/7-8	11/12-13	11/26-27	12/5-6	12/16-17
	竜王	○○●○○	九段	東京・渋谷区	愛知・名古屋市	京都・京都市	福島・福島市	鹿児島・指宿市	神奈川・箱根町	山形・天童市
2020/令和2年	第4局延期 指宿→第4局			セルリアンタワー能楽堂	萬松寺	仁和寺	吉川屋	指宿白水館	花月園	ほほえみの宿 滝の湯
第34期	豊島 将之	● 0-4	○ 藤井 聡太	10/8-9	10/22-23	10/30-31	11/12-13	11/26-27	12/4-5	12/17-18
	竜王	●●●●	王位・銀王・棋聖	東京・渋谷区	京都・京都市	福島・いわき市	山口・宇部市	岡山・倉敷市	鹿児島・指宿市	山梨・甲府市
2021/令和3年				セルリアンタワー能楽堂	仁和寺	雨情の宿 新つた	ANAクラウンプラザホテル宇部	円通寺	指宿白水館	常磐ホテル

○防衛 ●敗退 ◎奪冠 ▼失冠 ※氏名の右の数字は勝利数 ※網がけの対局は、4勝決着により開催されず (2022年10月現在)

第 35 期竜王戦七番勝負

対局、関連イベントの様子は以下の
読売新聞オンラインのサイトで紹介されています。

第 35 期竜王戦 読売新聞オンライン

<https://www.yomiuri.co.jp/igoshougi/ryuoh/>



将棋界の最高棋戦・竜王戦の最新ニュースや棋譜速報、観戦記をお届けする特集ページです。藤井聡太竜王に広瀬章人八段が挑戦する第 35 期竜王戦七番勝負も動く棋譜や写真特集など充実のコンテンツで速報します。

直前特集	第一局	第二局	第三局
第四局	第五局	第六局	第七局

対局者・局数	第 1 局	第 2 局	第 3 局	第 4 局	第 5 局	第 6 局	第 7 局
藤井聡太竜王	●	○	10/28,29	11/8,9	11/25,26	12/2,3	12/14,15
広瀬章人八段	○	●	@富士宮	@福知山	@福津	@指宿	@甲府

藤井竜王「苦しい展開続いたが途中から好転した」...広瀬八段に隙与えず 1勝1敗に



2022/10/23 00:25 藤井聡太 広瀬章人

将棋の最高棋戦で、藤井聡太竜王（20）に広瀬章人八段（35）が挑戦する第 35 期竜王戦七番勝負（読売新聞社主催、特別協賛・野村ホールディングス）の第 2 局が 21 日から京都市の世界遺産・仁和寺で行われ、22 日午後 4 時 21 分、...

記事へ

竜王戦第 2 局、藤井聡太竜王が勝って 1勝1敗のタイに... 105 手で広瀬章人八段破る【動く棋譜】



藤井竜王が挑戦者の広瀬八段に勝利、1勝1敗に...竜王戦第 2 局



2022/10/22 16:34 藤井聡太 広瀬章人

2022/10/22 17:58 藤井聡太 広瀬章人

竜王戦七番勝負 運営基本ガイドラインについて(第35期以降)

読売新聞社は、日本将棋連盟と共催する竜王戦七番勝負に先立ち、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、以下のガイドライン(運営方針)に沿って七番勝負を実施しています。

1) 対局前日の検分・前夜祭について

対局場などの検分と、前夜祭(または関係者食事会)を行います。

前夜祭は、会場の収容人数の70%以下で着席、200人までの参加者による開催を基準とします。対局棋士は、ステージの開幕セレモニー(式典のみ)に参加して、乾杯(または決意表明)後に退室します。立会人、解説者ら関係棋士は着席して参加します。会食を伴う場合、テーブル用の仕切りアクリル板を設置します。

2) 初手・封じ手など、対局立会い

対局観戦は、会場によって、対局者との十分な距離をとることができる会場については第1日目の初手、昼休憩後の再開、第2日目の開封などをご覧いただくプログラムを用意することも可能です。ただし、十分な準備が必要ですし、対局室の間取りに余裕がない会場では実施できません。ご了承ください。

3) 大盤解説会

会場の収容人数の70%以下で着席、1000人未満の開催を基準とします。(大規模ホール使用の際の入場者数は別途相談) ステージと席、席と席の距離を十分とって、1回の解説は1時間クール(解説40分、休憩20分)程度とし、小まめに休憩をとるように運営します。必ず、参加者の氏名、年齢、住所、連絡先が分かるように受付業務を行って下さい。

4) 運営本部・検討室への入室制限

読売と日本将棋連盟の協議により、運営本部(検討室)は関係者以外立ち入り禁止とさせていただきます。中にご案内したい関係者がいる場合は、所属、氏名、年齢、連絡先など事前の申請が必要となります。

5) 感染症対策

会場(対局場、運営本部、イベント会場など)に入る場合は、マスク着用を義務づけます。入場、入室の前に非接触型体温計で検温し、37.5度の発熱がある方は入場をご遠慮いただきます。入場の際にアルコール消毒液をご利用いただきます。会場で体温計、アルコール消毒液など、防疫備品をご用意ください。

会場で、新型コロナウイルス感染症が疑われる方が発覚した際は、必要に応じて、保健所に相談していただきます。当該保健所の電話番号を確認しておいてください。

以上

■竜王戦七番勝負に関するお問い合わせ■

読売新聞東京本社 編集局棋戦等事業室
〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1
TEL:03-6739-6713 FAX:03-3217-8289